

STEALTH MODE ステルス枠

フルハイトドア®

FULL HEIGHT DOOR®

施工手順書⑦-2

カエサル(CAESAR)

アウトセット片引き戸(上吊)

ステルス枠 施工手順書一覧

共通

※シリーズ専用以外の共通編の施工手順書は工事内容別で下記の①、②、③に分かれています。
 ※マルコシリーズの2・3枚引違い戸(上吊)、2枚引込み戸(上吊・連動)は共通編をご覧ください。
 ※本書の準耐火仕様とは、ご注文の際に当社の「準耐火仕様」を選択した場合に限ります。

①木工事

①-1.ステルス枠・標準仕様 / ①-2.ステルス枠・準耐火仕様

②クロス・塗り壁工事
(ステルス枠・インセット枠共通)

①-3.インセット枠仕様

③扉・金物の取付

(ステルス枠・インセット枠共通)

③-1. 開き戸

③-2. 片引き戸(上吊)、ポケット戸(上吊)、2枚引違い戸(上吊)

③-3. 2・3枚引込み戸(上吊・連動)、3枚引違い戸(上吊・連動/非連動)

③-4. 片引き戸(床付レール)

シリーズ専用

※シリーズ専用の施工手順書(④~⑨)は木工事、クロス・塗り工事、扉・金物の取付が一式含まれます。

④クローゼット

④-1. 折れ戸 ④-2. 物入片開き戸、両開き戸、物入4枚・6枚連続開き戸

④-3. スライド片開き戸

⑤オートマチックドア

⑤-1. 片引き戸(上吊)、片開き戸

⑥ヴェトロ・ミラノ

⑥-1. アウトセット片引き戸(上吊) ⑥-2. 開き戸

⑦カエサル

⑦-1. スイング戸、両スイング戸、サイドガラスユニット

⑦-2. アウトセット片引き戸(上吊)

⑧マルコ

⑧-1. 3枚引込み戸(上吊・非連動) ⑧-2. 2枚引分け戸、4枚引違い戸(上吊)

⑨フィット

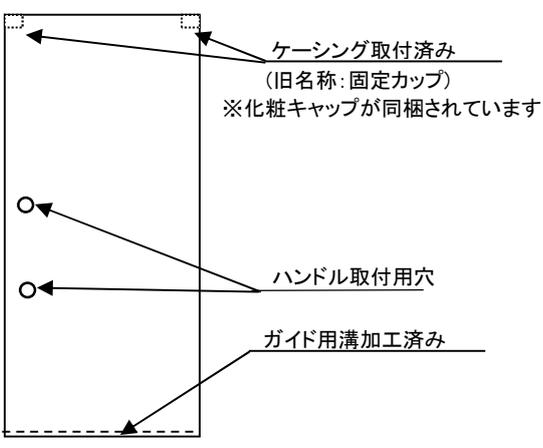
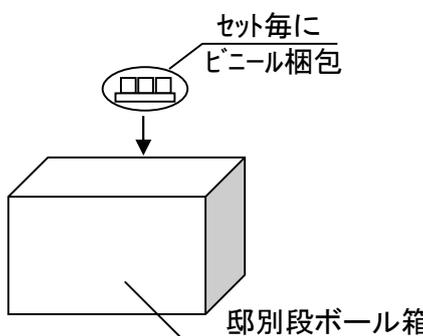
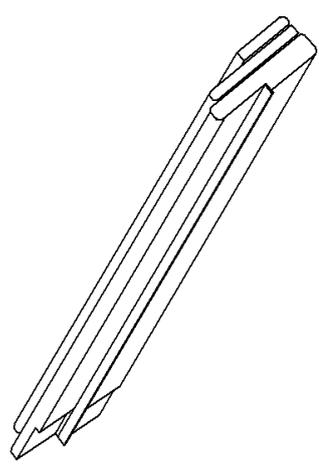
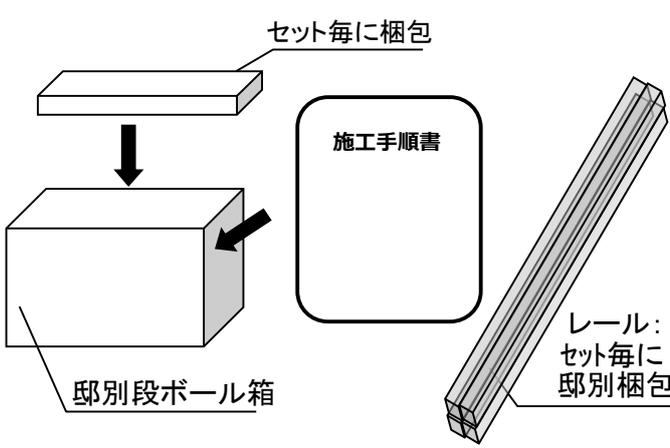
⑨-1. スイング戸 ⑨-2. 片引き戸(上吊)、2枚引違い戸(上吊)、2枚引分け戸



KAMIYA

□納品形態

施工手順書2025/8改訂

扉と同時に納品されるもの	
建具	建具金物箱
	
下地枠と同時に納品されるもの	
下地枠	下地金物箱とレール
	

(注意)

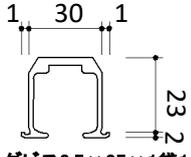
フィットの扉重量は最大約55kgです。

・扉を運ぶ時、吊り込む時の角当て等、取扱いには十分ご注意ください。

・重量扉専用の上レール、上ローラーを使用しております。

他シリーズの上レール、上ローラーとは互換性がございません。

□下地金物箱の梱包内容

姿図	アウトセット 片引き戸(上吊) エンド枠無	アウトセット 片引き戸(上吊) エンド枠付			
上レール 	1本	1本			
取付ビス(皿タッピングビス3.5×35×1袋14本) ※取付ビスは「デュアルソフトクローザー & 上ローラー」の 梱包箱 に同梱					
デュアルソフトクローザー 上ローラー 	1セット	1セット			
トリガー  (取付ビス含む)	1セット	1セット			
エンドプレート  (取付ビス含む)	2個	2個			
スパナ 	1本	1本			
床付ガイド  (取付ビス含む)	1個	1個			
バンパーブロック 	2個	1個			
下部戸当たり  (取付ビス含む)	2個	1個			
壁付ガイド (別売) (取付ビス含む) 	1個	1個			
調整ビス【標準】 					
コースレッドビス 【準耐火】 	-	14本			

□建具金物箱の梱包内容

※ご注文されたハンドルをご確認ください。

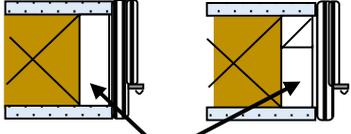
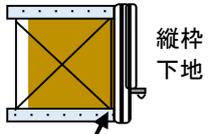
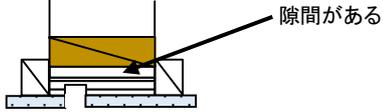
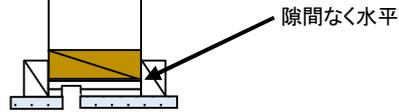
GT/GV/GWタイプ(本体)		GH/GKタイプ(本体)	
			
コロ 	4ヶ	ステンレスプレート 	8ヶ
ゴムパッキン 	4ヶ	ゴムパッキン 	9ヶ (予備1ヶ)
スプリングワッシャー 	2ヶ	スプリングワッシャー 	8ヶ
ビス(M8×80) 	2本	ビス(M6×70) 	4本
—	—	ビス(M6×50) 	4本 (使用しません)
横ビス(M3.8×5.5) 	4本	コロ 	4本

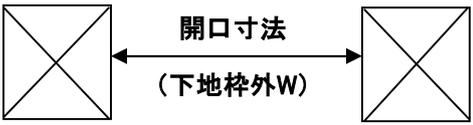
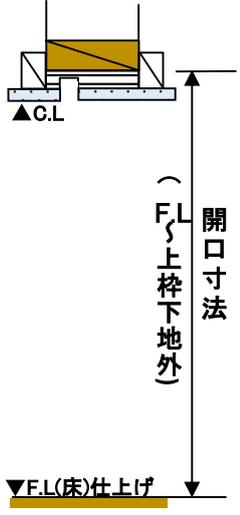
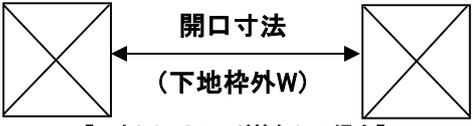
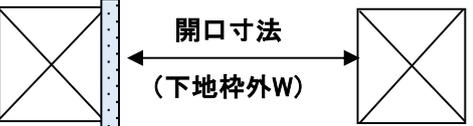
GF/GGタイプ(本体)		GEタイプ(本体)	
			
コロ 	2ヶ	コロ 	2ヶ
ゴムパッキン 	4ヶ	ゴムパッキン 	4ヶ
スプリングワッシャー 	2ヶ	スプリングワッシャー 	2ヶ
ビス(M6×75) 	2本	ビス(M6×75) 	2本
横ビス(M3.8×5.5) 	4本	横ビス(M3.8×5.5) 	4本

□ 開口部の確認

forステルス【標準仕様】

施工手順書2025/8改訂

開口部(躯体側木下地)の確認		共通	
<p>下地枠を取り付ける前に、躯体側に木下地が隙間なく平滑に入っているか確認をしてください。</p>	<p>【引き戸・開き戸共通】</p>  <p>縦枠下地 隙間がある</p>	<p>【引き戸・開き戸共通】</p>  <p>縦枠下地 隙間なく平滑</p>	<p>下地枠の裏側部分には必ず木材を全面に入れておいてください。</p>
	×	○	
	 <p>上枠下地 (天井ボード勝ち) 隙間がある</p>	 <p>上枠下地 (天井ボード勝ち) 隙間なく水平</p>	
	×	○	
<p>ポイント</p> <p>※躯体側の木下地（柱・まぐさ等）の水平・垂直・前後の倒れ・ねじれ等がないか、水平器等で十分に確認してください。</p> <p>※上枠下地が無い納まりの場合でもクロスのエレ・ヒビを防ぐために木下地は隙間なく平滑に入れてください。</p>			

開口部(寸法)の確認		共通
<p>下地枠を取り付ける前に、開口部の巾・高さ寸法を確認してください。</p>	<p>【標準仕様】</p>  <p>開口寸法 (下地枠外W)</p>	 <p>開口寸法 (FL)上枠下地外 FL(床)仕上げ</p>
	<p>【準耐火仕様】</p>  <p>開口寸法 (下地枠外W) 【アウトセットエンド枠無しの場合】</p>	
	 <p>開口寸法 (下地枠外W) 【アウトセットエンド枠付きの場合】</p>	
	<p>【巾寸法】</p> <p>開口寸法 (= 下地枠外W)</p>	
<p>ポイント</p> <p>※開口寸法は邸別の納まり図でご確認ください。</p> <p>※納まり図の高さ寸法はFL(床仕上げ面)からの寸法となっているので注意してください。</p>		

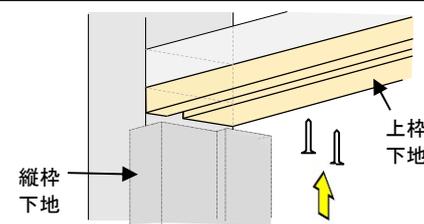
□上枠下地

forステルス【標準仕様】

施工手順書2025/8改訂

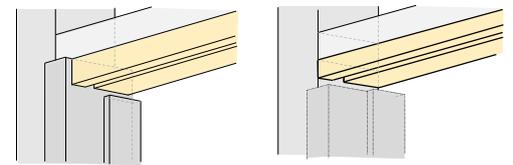
上枠下地の取付【天井高納まり】 引き戸(上吊)共通

上枠下地を接着剤・取付ビス(現場手配品)併用で躯体側木下地に固定します。(縦枠下地勝ち)
 その際、上枠下地の裏側には30mm以上の木材を入れてください。



天井ボード勝ち納まり【標準仕様】

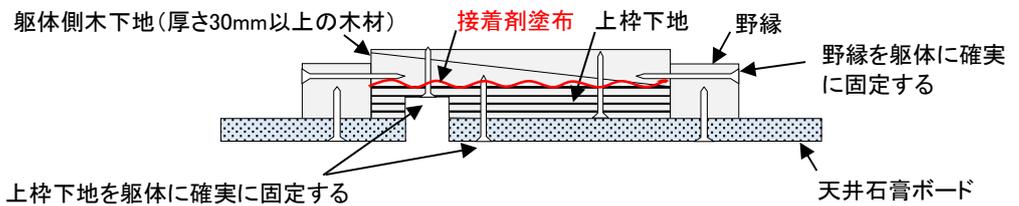
上枠下地裏面に接着剤全面塗布(推奨: 酢ビ系)



【縦枠勝ち】 → 【上枠勝ち】

※2023vol2カタログより、引き戸(上吊)上枠下地は「縦枠勝ち納まり」から「上枠勝ち納まり」へ変更になり、上枠長さはw下地枠外寸法で納品されます。

天井ボード勝ち納まり【標準仕様】



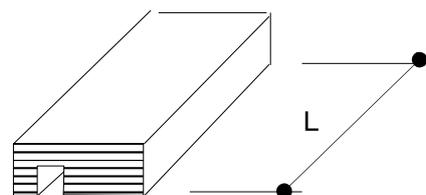
天井石膏ボードを固定する野縁材と上枠下地は躯体側木下地にしっかりと固定してください。
 しっかり固定されていないと、クロスの子ビ、ヨレ、ヒビの原因となります。

2023年vol2カタログより、引き戸の上枠長さはw下地枠外寸法となり、縦枠負けの納まりとなります。

- ポイント**
- ※縦枠下地、及び片方立下地の天井のみ込み部分は、ボードの厚み部分の欠き込みを行ってください。
 - ※上枠下地の取付にはしっかりと固定できるビス(現場手配品)を使用し、下穴を空け、レールビスと干渉しない位置でビス留めしてください。
 - ※上枠下地枠取付後にクロスで仕上げますので、ビスの頭が飛び出さないようにしてください。
 - ※上枠下地の裏側には、必ず30mm以上の木材を入れてください。

注 上枠下地の長さ(共通)、アウトセット片引き戸の上枠下地の取付向きと取付位置

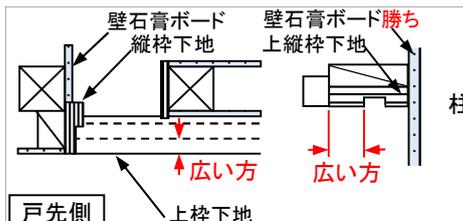
上枠下地の長さについて



2023年vol2カタログより、引き戸の上枠長さはw下地枠外寸法となり、縦枠負けの納まりとなります。

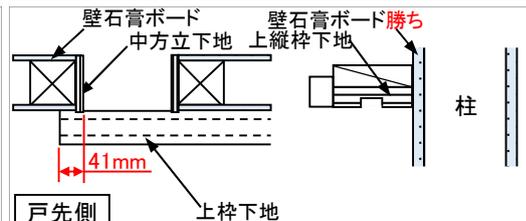
上枠下地はL=2421mm以上の場合は2分割で納品

アウトセット片引き戸の上枠下地の取付向きと取付位置について



【アウトセット片引き戸エンド枠付きの場合】

上枠下地の向きに注意(広い方が外側)



【アウトセット片引き戸エンド枠無しの場合】

上枠下地の位置に注意(中方立下地内から41mm)

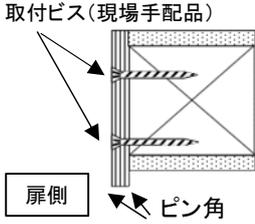
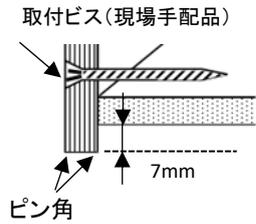
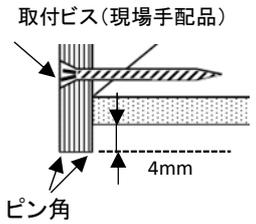
- ポイント**
- ※アウトセット片引き戸の上枠は壁石膏ボード勝ちで納めます。

□ 中方立下地

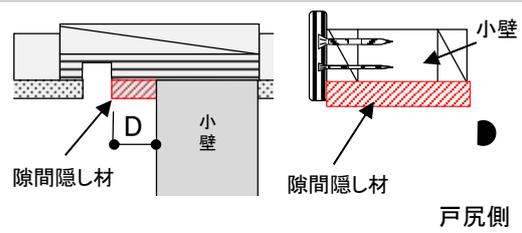
forステルス【標準仕様】

施工手順書2025/8改訂

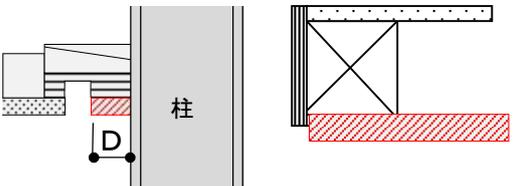
中方立下地の取付

<p>【注意】 接着剤・取付ビス(現場手配品)併用にて躯体に固定します。</p>	 <p>裏面に接着剤全面塗布(推奨: 酢ビ系)</p>	 <p>下地表よりビス固定</p>	 <p>ビス頭の飛び出し ×</p>	 <p>○</p>
<p>【アウトセット片引き戸】 壁厚に対して扉側に7mm(塗り壁時4mm)のチリが出ます。</p>	 <p>取付ビス(現場手配品) 扉側 ピン角</p> <p>チリが出る側(扉側)にピン角を向ける</p>	 <p>取付ビス(現場手配品) 7mm ピン角</p> <p>【クロス仕上の場合】 壁厚より7mmチリが出る</p>	 <p>取付ビス(現場手配品) 4mm ピン角</p> <p>【塗り壁仕上の場合】 壁厚より4mmチリが出る</p>	
<p>ポイント</p>	<p>※下地枠の取り付けにはしっかりと固定できるビス(現場手配品)を使用し、必ず下穴の開いている位置でビス留めしてください。 ※下地枠取り付け後にクロスで仕上げますので、ビスの頭が飛び出さないようにしてください。</p>			

隙間隠し材の取付【天井高納まり】

<p>上枠下地のレール溝と小壁の間に隙間隠し材を現場で正寸にカットして取付けてください。</p>	 <p>隙間隠し材 小壁 戸尻側</p>		
<p>上枠下地のレール溝と小壁の間に隙間隠し材を取りつける</p>			

隙間隠し材の寸法一覧

開閉様式別	クロス仕上げ		
<p>・アウトセット片引き戸</p>  <p>柱</p>	<p>D=22.5mm</p>		

□縦枠下地

forステルス【標準仕様】

施工手順書2025/8改訂

縦枠下地の取付

エンド枠付き

縦枠下地を壁厚(柱)の中央にあてレーザー等で立ちを見ながら、同梱の調整ビスで取付けてください。

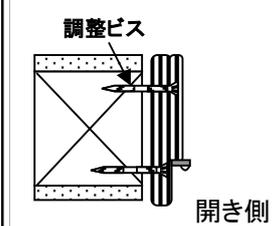
※クロス・塗り壁で仕上げますのでビス頭の飛び出しは厳禁です。

取付の際に、クリアランススペーサー(調整ビスに同梱)を柱と枠の間に入れながら、調整ビスを締めてください。

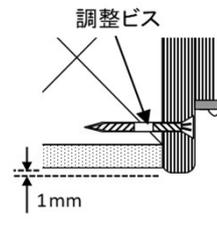
※柱と縦枠下地のクリアランスは2mmが標準設定です。

【注意事項】

縦枠下地を含む全ての下地枠を取付け後、縦枠下地の調整と固定をする必要があります。



調整ビスにより枠を固定



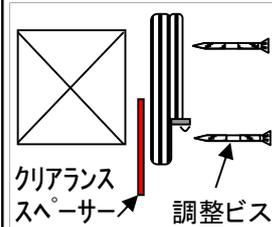
縦枠下地の見込寸法は壁厚+1mmずつのチリ



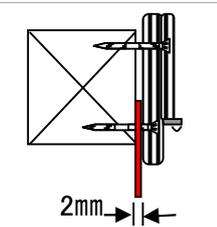
調整ビス頭の飛び出し
×



○



クリアランススペーサー 調整ビス



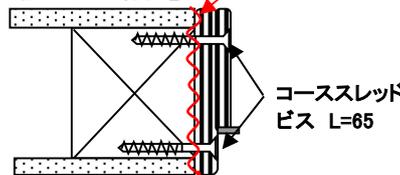
2mmのクリアランスを保ち調整ビスで取付



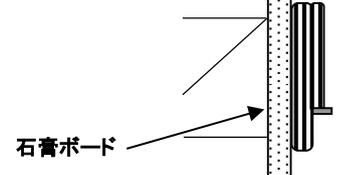
縦枠下地の下部裏側に2mm厚パッキン材取付済

準耐火の場合

【袖壁納まりの場合】



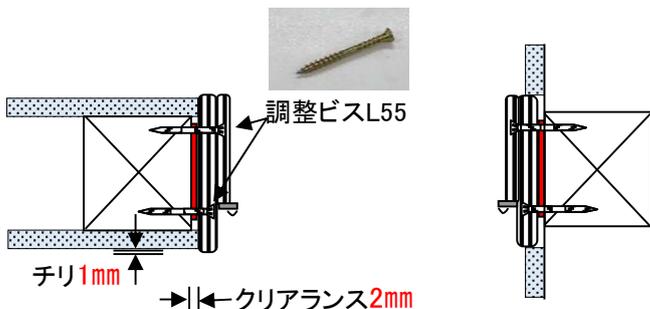
【入隅壁納まりの場合】



- ボ ※縦枠下地の下部裏側にあらかじめ2mmのパッキン材がついてますので、枠内寸法が確保できない場合以外は外さないでください。
- イ ※クリアランススペーサーが抜けない場合は、手動ドライバーにて少しゆるめてから外してください。
- ン ※躯体がスタッドの場合は、調整ビスが効かないため、縦枠下地とスタッドの間に必ず木下地(15mm以上)を入れてください。
- ト ※調整ビスを何度も出し入れすると、ビス穴が広がり、調整が効かなくなりますので、その際は別の所で再度、固定してください。

注 「標準仕様・壁石膏ボード12.5mm」と別冊「準耐火仕様・壁石膏ボード厚15mm」との違い

【標準仕様】入隅部は壁石膏ボード負け



別冊【準耐火仕様】入隅部は壁石膏ボード勝ち



□縦枠下地

forステルス【標準仕様】

施工手順書2025/8改訂

縦枠下地の調整		エンド枠付き	
<p>全ての下地枠を取付けた後、下地枠内W寸法を確認してください。調整が必要な時は、手動ドライバーを使用し調整ビスで縦枠下地の出し入れを行ってください。</p>			
	<p>開口を確認 <アウトセット片引き戸(エンド枠付き)></p>		

縦枠下地の固定		エンド枠付き	
<p>取付・調整後、縦枠下地と柱の間にクサビ、又はパッキン（現場手配品）を接着剤併用（表裏塗布）にて差込み、縦枠下地が動かないようガッチリ固定してください。</p>			
	<p>クサビ又はパッキンに接着剤を塗布し縦枠下地と柱をガッチリ固定（クロス・塗り壁のヒビ割れ防止策）</p>	<p>柱面からクサビ等が飛び出している</p>	<p>柱面からクサビ等が飛び出していない</p>
<p>ポイント</p>	<p>※ウォールスルーが並列する場合など、取合により調整ビスが貫通してしまう恐れがある場合は、別途ビス(現場手配品)で取付けてください。</p> <p>※クサビ・パッキンの差込みは、ビスとビスの間に入れてレーザー等で立ちを見ながら行ってください。</p> <p>※クサビ・パッキンが柱面から飛び出していると、石膏ボードの取付ができないので、柱面から飛び出さないようにしてください。</p>		

石膏ボード・シンプル幅木の取付

forステルス【標準仕様】

施工手順書2025/8改訂

石膏ボードの取付け時の注意点

枠に突き付ける石膏ボードは面をとり、枠との間に隙間が出ないように石膏ボードを取付けてください。

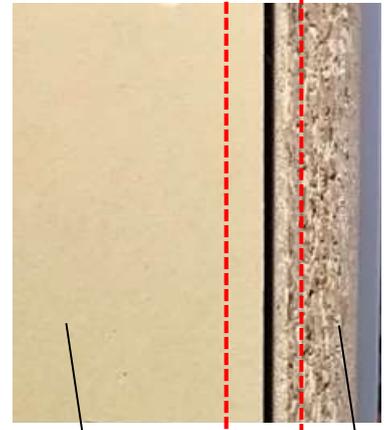
【注意事項】

クロスや塗り壁の仕上がりに影響がでる恐れがありますので必ず守ってください。



石膏ボード

下地枠



石膏ボード

下地枠

枠と石膏ボードの
隙間無し



枠と石膏ボードの
隙間有り



石膏ボードの
面取有り



石膏ボードの
面取無し



シンプル幅木コーナー役物・取付け時の注意点

枠の取付・調整、及びクサビ、またはパッキンの固定が終わったら、幅木を接着剤で縦枠下地の下部の切欠き部分にはめ込むように取付けてください。



接着剤全面塗布
(推奨：酢ビ系)

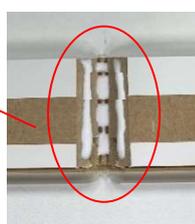


【クロス貼り仕上の場合】
切欠寸法：7×30



【塗り壁仕上の場合】
切欠寸法：4×30

下地の欠き込み部分にはめ込む様に取付



【注意事項】 幅木コーナー役物のVカット部も接着剤を塗布してください。※塗布しないと割れ易くなります。

- ボ ※出荷時には、シンプル幅木の切欠き加工がされています。
- イ 高さ30mm以上の幅木をご使用の場合は、現場で高さ方向の切り欠きを行ってください。
- ン ※厚さ7mmを超える幅木(現場手配品)には対応しておりません。
- ト

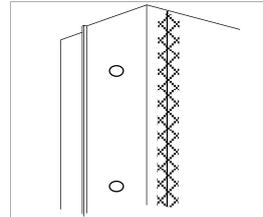
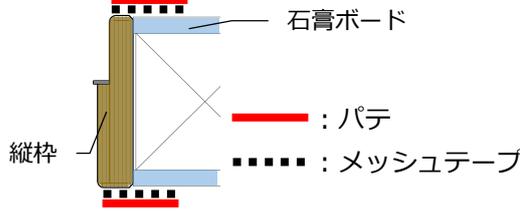
□クロス施工時の注意点

forステルス枠

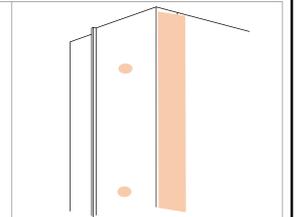
施工手順書2025/8改訂

縦枠【袖壁納まりの場合】

① 縦枠と石膏ボードのジョイント部にメッシュテープを貼り、パテ等の下地処理を行ってください。

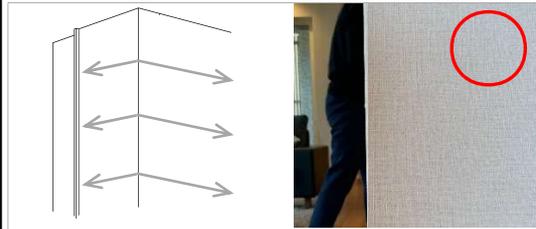


ジョイント部をまたいでメッシュテープを貼る

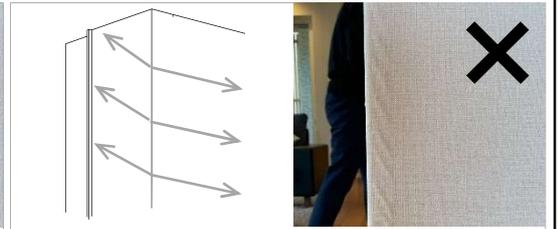


ビス穴、メッシュテープ部、及び縦枠の木口面全体にパテを塗る(下塗り、上塗り)

② 下地処理が完了した後にクロスを貼ってください。



枠に巻き込む際、クロスは上下左右余裕をもったサイズでまっすぐ貼る



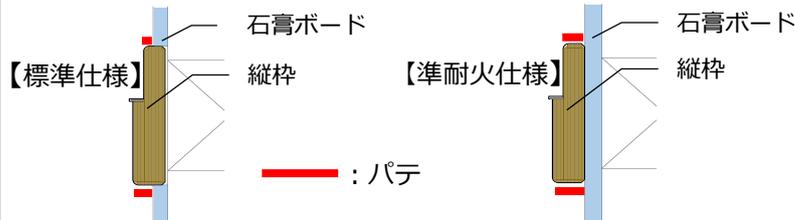
枠に巻き込む際、クロスを過度な力で斜めに引っ張りながら貼るとクロスよれの原因となります

ポイント ※メッシュテープ貼り→パテ下塗り→パテ上塗りを推奨します。
※縦枠の木口面全体にパテを塗ってください。

縦枠【入隅壁納まりの場合】

① 縦枠の入隅部は貼りづらく、クロスを貼る際にクロス面積が大きい壁面のクロスに引っ張られやすくなりますので注意が必要です。

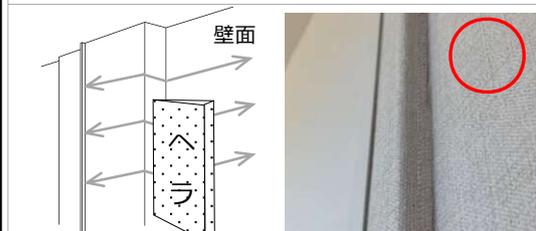
縦枠の木口面にパテ等を塗り、クロスを貼る際は縦枠の木口面をヘラ等であてながら壁面のクロスに引っ張られないように、まっすぐ貼ってください。



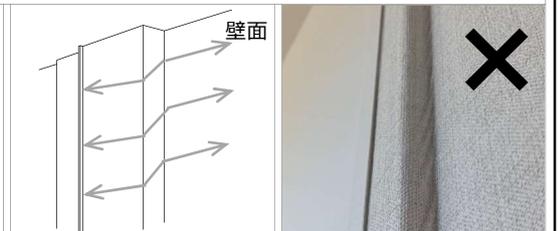
ビス穴、縦枠の木口面全体にパテを塗る

(木口面の見附寸法が小さく、パテが塗りにくい箇所はコークボンドを塗る)

※但し、クロス厚が薄い場合はコークボンドで不陸が出ないようにご注意ください



枠の入隅部に貼る際、クロスは上下左右余裕をもったサイズで木口にヘラ等をあてながら壁面のクロスに引っ張られないようにまっすぐ貼る



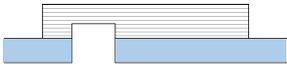
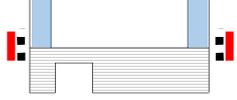
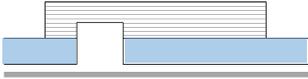
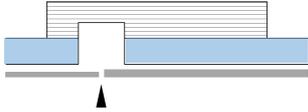
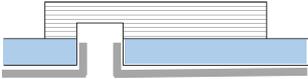
枠の入隅部に貼る際、クロスを過度な力で斜めに引っ張りながら貼ると壁面のクロスに引っ張られ、クロスよれの原因となります

ポイント

□クロス施工時の注意点

forステルス枠

施工手順書2025/8改訂

上枠	
<p>① 上枠と石膏ボードのジョイント部にメッシュテープを貼り、パテ等の下地処理を行ってください。</p> <p>※天井高納まりの場合、標準設定の【天井ボード勝ち】納まりではジョイント部が発生しませんので不要です。</p> <p>上レールが取付く場合の天井クロスはレール溝に巻き込み、上レールを取付けてください。</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>天井高納まり</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>下がり壁納まり</p> <p>■ : パテ ■ : メッシュテープ</p> </div> </div>
	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>クロスよれ等を防ぐため、【天井ボード勝ち】納まりを標準設定としています。</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>上枠と石膏ボードのジョイント部にメッシュテープを貼り、パテ等の下地処理を行ってください。</p> </div> </div>
	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-end;"> <div style="text-align: center;">  <p>①レール溝をまたいで クロスを貼る</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>②溝の中央にカッターで 切れ目を入れる</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>③クロスを溝に巻き込む</p> </div> </div>
<p>ポ イ ン ト</p>	

<p>ポ イ ン ト</p>					
----------------------------	--	--	--	--	--

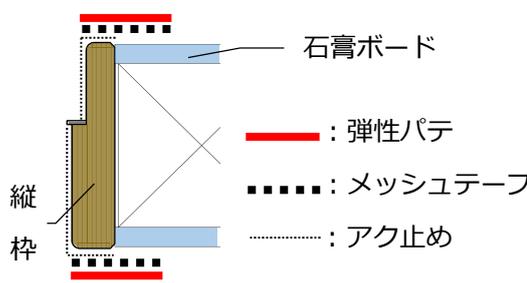
塗り壁施工時の注意点

forステルス枠

施工手順書2025/8改訂

塗り壁の施工例：縦枠（漆喰、弾性パテを使用の施工例）

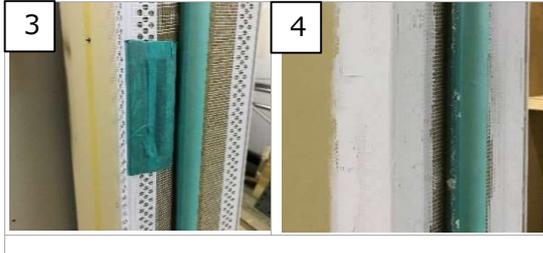
① 木工事完了後、枠にアク止め材を塗布・乾燥後、縦枠と石膏ボードのジョイント部にメッシュテープを貼ってください。
※コーナー見切材を使う場合は、メッシュテープを貼る前に取付ける。



1
アク止め材塗布・乾燥
(2度塗りを推奨)

2
アク止め材を塗布・乾燥後、縦枠と石膏ボードのジョイント部にメッシュテープを貼る
(写真はコーナー見切材を併用の場合)

② アルミ調樹脂見切材、金物等に養生を行い、弾性パテを塗布・乾燥 → シーラー材を塗布・乾燥 → 漆喰を塗布・乾燥させてください。



3
金物等を養生し、弾性パテを塗布する(一度塗り)

4
シーラー材塗布・乾燥
(一度塗り)

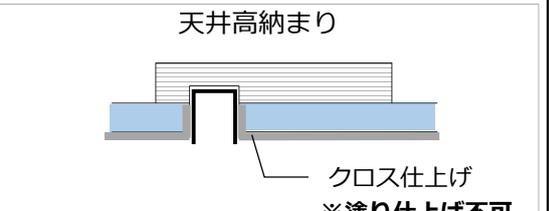
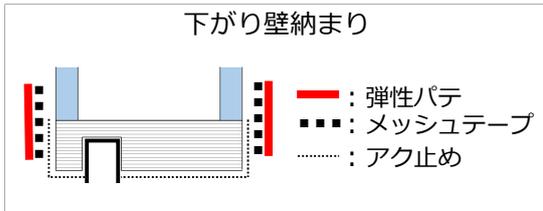
5
シーラー材塗布・乾燥
(一度塗り)

6
シーラー材を塗布・乾燥後、漆喰を塗る

- ポイント**
- ※壁仕上げ面の塗り厚は2～3mmの設定です。
 - 但し、引き戸の下部見切り縁の寸法が2.5mmのため、はみ出さないよう注意して施工してください。【下図参照】
 - ※コーナー見切材を使う場合は、コーナー見切材の端部にもメッシュテープを貼ってください。
 - ※金物が取付く箇所はコーナー見切材を切り欠いて取付けてください。(ヒンジ、ラッチ受け、錠受け金物を先につける)

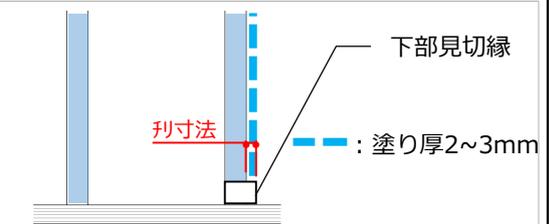
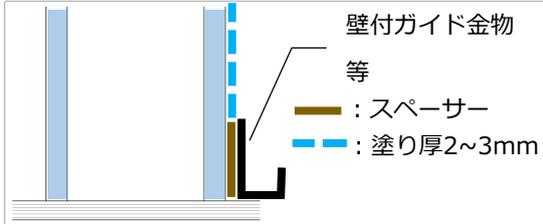
塗り壁の施工例：その他（漆喰、弾性パテを使用の施工例）

① 下がり壁納まり、天井の仕上げ材、壁付けの金物、引き戸の下部見切材については右表をご確認ください。



下がり壁納まりは、上図縦枠と同様の手順で施工してください。上レールは塗り壁施工前に取付けてください

天井高納まりの場合は、天井の仕上げはクロス貼りとしてください



壁付の金物を取付ける場合、塗り壁の塗り厚分のスペーサー(合板等)を挟んで取付けてください

引き戸の下部見切り縁のチリ寸法が2.5mmのため、はみ出さないよう注意して施工してください

- ポイント**
- ※壁仕上げ面の塗り厚は2～3mmの設定です。
 - 但し、引き戸の下部見切り縁のチリ寸法が2.5mmのため、はみ出さないよう注意して施工してください。
 - ※下がり壁の上枠下端面(上レールが取付く面)の塗り厚は1.5mmの設定です。

上レールの取付

上レールを取り付ける際、戸先側・戸尻側の向きに注意し、右表のとおり各開閉様式に応じた金物を上レール内部に入れ、付属ねじで上レールを固定してください。

【注意事項】

※上レールはプレカット、穴加工済み、「戸尻側」のシール貼り済みで納品されます。

※ソフトクローザーの誤作動の原因となりますので、上レールの取付ビスの締め過ぎやビス頭の出張りが無いように注意してください。

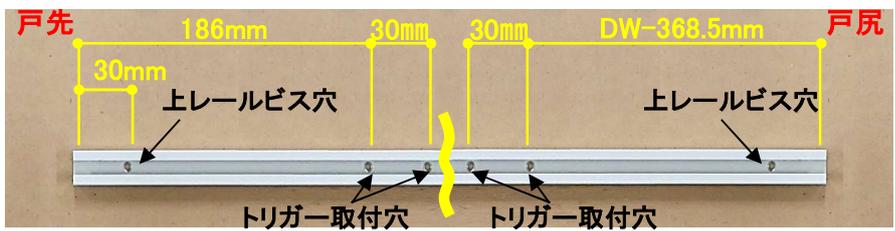
※エンドプレートがある場合は上レール端部に両面テープで仮止めし、付属ねじで固定してください。

※トリガー取付穴に上レール固定ねじを取付けないでください。

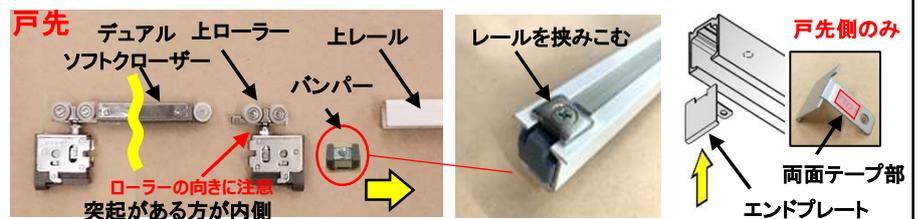
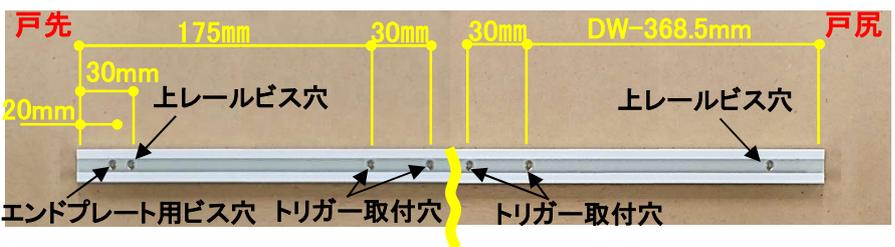
※上レール内にゴミやアルミの切粉などはきれいに取り除いてください。

※金物が破損する原因となりますので、過度な勢いで扉の開閉を行わないでください。

【アウトセット片引き戸エンド枠無し】 レール長さ = 上枠下地長さ - 3mm

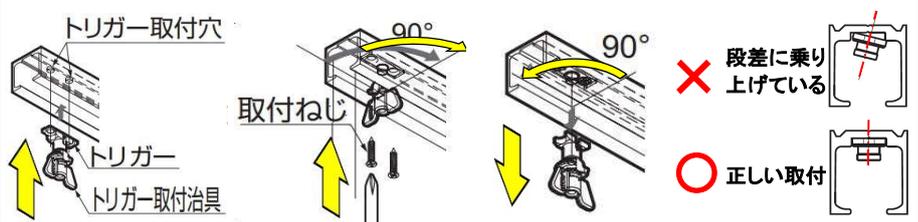
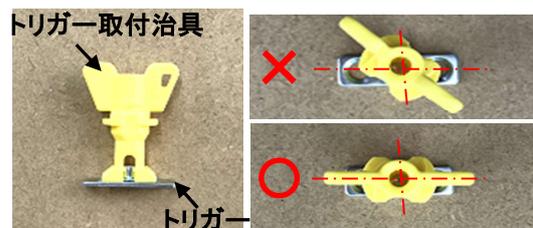


【アウトセット片引き戸エンド枠付き】 レール長さ = 上枠下地長さ - 24mm



トリガーの取付

トリガーを取付治具にセットし、トリガー取付穴に合せてください。治具を90°回し、トリガーを付属ねじで取付けてください。取付治具は元の向きに戻すと外れます。



バンパーブロックの固定

バンパーブロックが取付く場合は、グレー色のゴム部を上レール端部ぎりぎりに寄せて固定します。

バンパーブロックが取付く場合は、エンドプレートは取付きません。



床付けガイドの取付

右表のとおり各納まりに応じた金物を取付けます。

【注意事項】

※右表はクロス仕上げの場合の寸法を示します。塗り壁時を含め、取付寸法は邸別(開口毎)の納まり図でご確認ください。

※塗り壁時の塗り厚は2~3mmを想定しています。

アウトセット片引き戸(上吊)



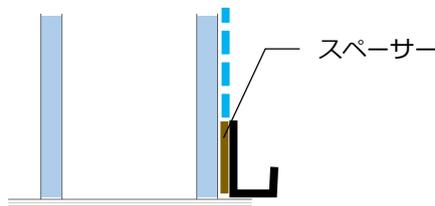
床付ガイドの場合



壁付ガイドの場合



<塗り壁の場合>



※壁付ガイド(塗り壁仕上げ)の場合、塗り厚分のスペーサー(合板等)を挟んで取付けてください

扉の吊り込み

建具下の溝をガイドに差し込みます。

ポケット戸の場合は先ず戸尻側のみ、扉上部のケーシングと上レール内の上ローラーを連結してください。
次に扉を回転させながら、扉下部の溝を床付ガイドに差し込みます。

【ガイドの場合】



床付ガイドの場合

壁付ガイドの場合

建具を起こしていきながら、建具上部のケーシングと上レール内にある上ローラーを連結し、吊り込み完了です。

【上ローラーの連結】



押す

パチン

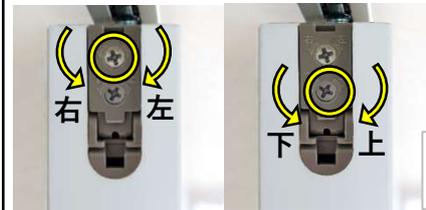
【上ローラーの外し方】



脱着レバーを倒し、引張ります

吊り込み後に上ローラーで調整をする際は、上下調整は下側のネジ、左右調整は上側のネジにて、手動ドライバーで行ってください。

【上ローラーの調整】



右 左

下 上

【調整可能範囲】

上下方向±4.0mm

！調整し過ぎに注意！

全ての調整を終えたら、化粧キャップを取付けてください。

外す場合は、化粧キャップの溝にマイナスドライバー等を差し込み外してください。

【化粧キャップの取付】

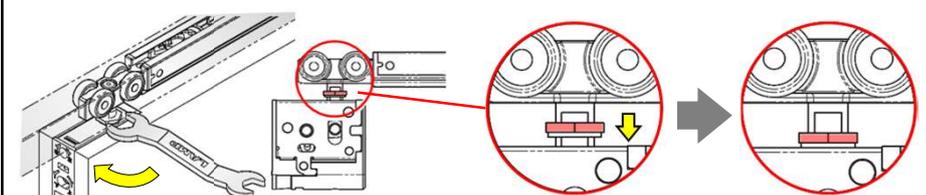


NG
脱着レバーが
元に戻らない

調整可能範囲を超えた上方向への調整は脱着レバーを倒した場合、脱着レバーが元に戻らず、吊車が扉に完全に固定されずに脱落の恐れがあります。その際は下方向に調整を戻してください。

両側のローラー吊軸の跳ね上がり防止ナットを、本体に接触するまでスパナで締めてください。

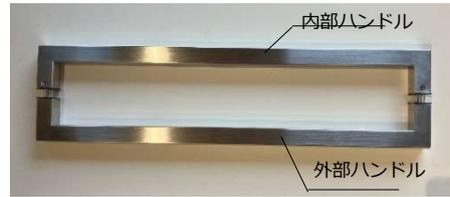
【跳ね上がり防止ナットの締付】



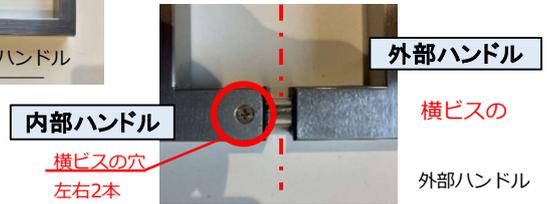
ハンドルの取付

【GT/GV/GWタイプの場合】

内部ハンドルと外部ハンドルの確認してください。**内部ハンドルには横ビスの穴があります。**

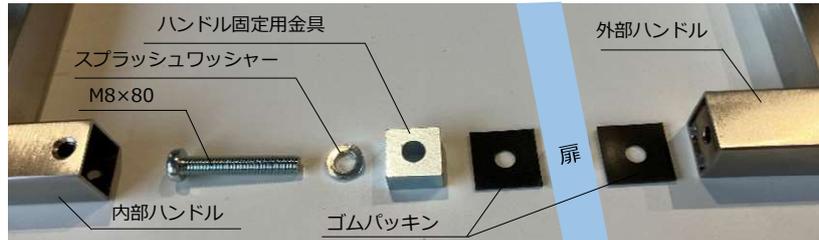


上記写真はGWタイプの場合



各パーツと外部ハンドルで扉を挟み、M8×80のビスで締め込んでください。

最後に、ハンドル固定用金物に内部ハンドルを差し込み、両側からビスで取付けてください。



内部ハンドルを横ビスで取付ける (左右2か所)

ポイント

※ハンドルは手動ドライバーで取付けてください。

※カエサル・アウトセット引き戸(上吊)はバーハンドルが取り付けため、扉を開けた時に引き残しが120mmできる設定です。(納まり図参照)

ハンドルの取付

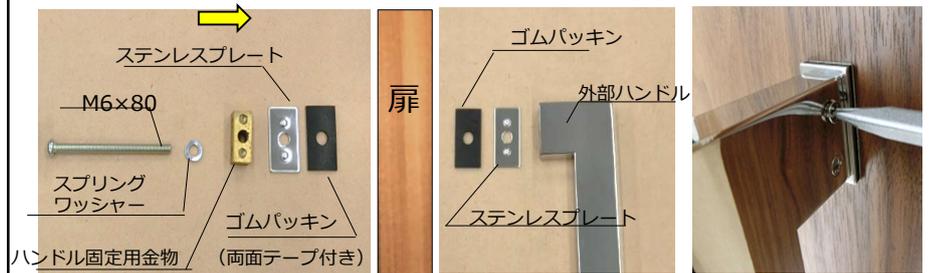
【GH/GKタイプの場合】

内部ハンドルのハンドル固定用金物を取り外してください。



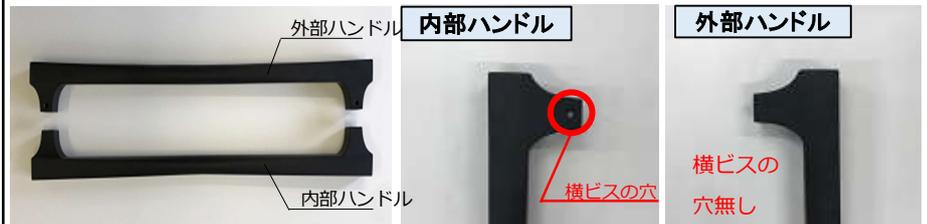
各パーツと外部ハンドルで扉を挟み、M6×80のビスで締め込んでください。

最後に、ハンドル固定用金物に内部ハンドルを差し込み、両側からビスで取付けてください。



【GEタイプの場合】

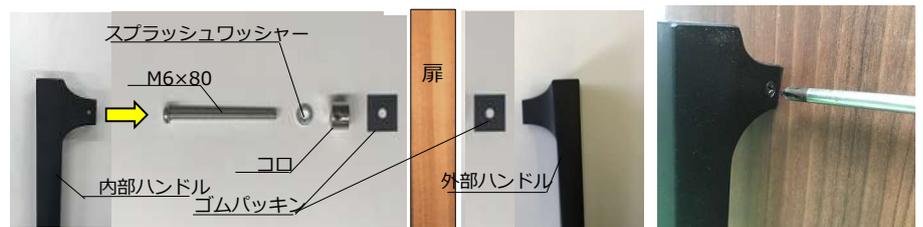
内部ハンドルと外部ハンドルの確認。



各パーツと外部ハンドルで扉を挟み、M6×80のビスで締め込み。

内部ハンドルの両側からビスで取付けてください。

※ハンドルタイプによって部材の形状・大きさが異なります。



ポイント

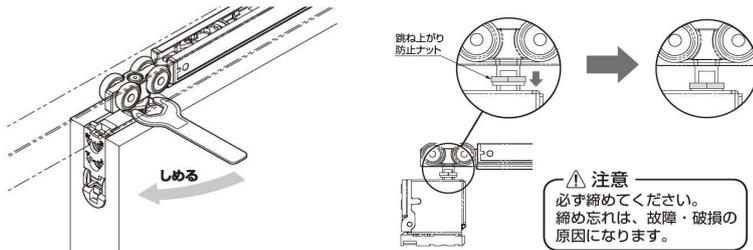
※ハンドルは手動ドライバーで取付けてください。

※カエサル・アウトセット引き戸(上吊)はバーハンドルが取り付けため、扉を開けた時に引き残しが120mmできる設定です。(納まり図参照)

トラブルシューティング

⚠️ 動作不良や異音発生を防ぐ内容ですので必ず確認してください ⚠️

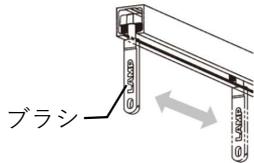
①戸先側・戸尻側の吊車の跳ね上がり防止ナットを締めてください。



↑ ナットの締め方のコツ

②切り粉などがレール内部に残らないようにブラシや布等で掃除してください。動作不良や異音が発生します。

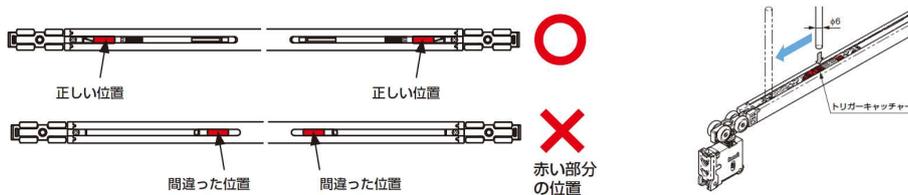
シリコンスプレーなどは使用しないでください。埃が溜まりやすくなり動作不良等の原因になります。



↑ 異音発生時の対処方法

③ソフトクローズが効かない場合、ダンパーの位置が違う可能性があります。

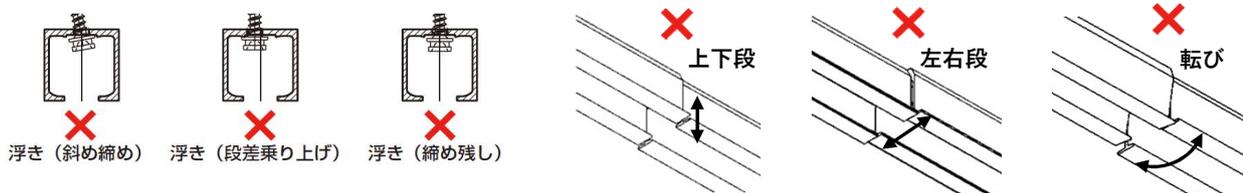
ダンパーの位置を確認して、正しい位置に戻してください。



↑ ダンパー位置修正方法

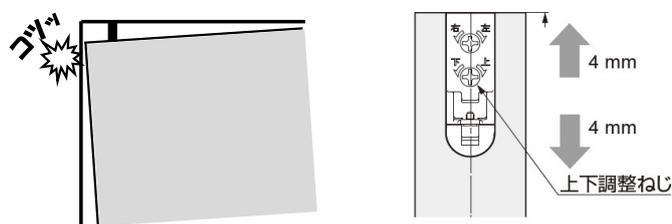
④レールのつなぎ目に段差が無いが、レールやトリガーに転びが無いが確認してください。

扉が閉まりきらなかったり、動作不良を起こします。



⑤扉を閉めた時に扉上部が先に当たっていると“コツツ”と音がします。

吊車の上下調整をして扉が縦枠と平行になるようにしてください。



↑ 調整方法動画

※扉下端の2mmのクリアバンポン分空きます

⑥吊車の脱着レバーを倒した後、元に戻らず扉と吊車が固定されない。

上方向への調整し過ぎのため、調整を下方向へ戻してください。



↑ 脱着レバーが
固定されない時